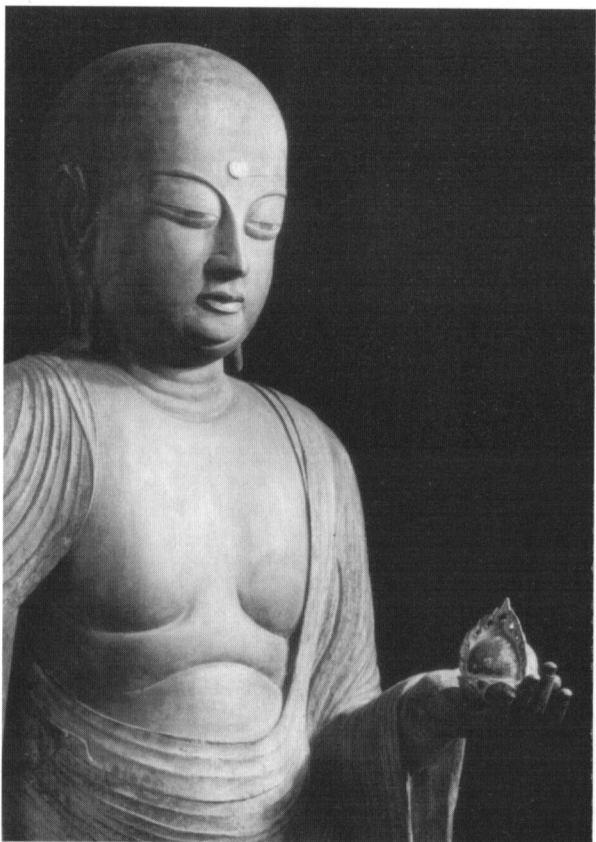


■子安地藏菩薩と海神社の伝説

子安地藏菩薩を祀る安産寺の所在する三本松中村は、奈良県の東部に位置し、三重県名張市に隣接する山間の集落で、室生の深山の湧水を集めた宇陀川の清流に面した風光明媚な環境にある。これより室生川を遡った所に室生の守護神である竜穴神社と室生寺（竜王寺）があつて、後で述べるが古来より深い関わりを持つていた伝説



がある。

この地藏菩薩像は、先人古老の言伝えによれば「その昔々、時ならぬ豪雨で宇陀川が増水した時、上流より流されて、安産寺の対岸にある海神社脇に流れ着いた。村人達は驚き慌ててお救いした処余りにも優しくて美しいお姿にみとれつつ、安置する場所を求めて集落へとお運びして来たが、俄かに足が進まなくなり「ああシンンド

（辛く苦しいの意）」と腰を降ろした其の時、仏像も「ここからは何処へも行きたくない」とのご尊顔を感じ取った村人達は、この場所にお像を祀れと言う御託宣（お告げ）ではないかと悟り、早速そこに堂（新堂）を構えてお祀りしたのが子安地藏菩薩本堂（後に安産寺と改名）である」という挿話は今も地域の伝承として生き続けている。

地藏菩薩は私達衆生の世において、六道の救済に当らされている現世仏であり、諸々の民の願いを済度されておられる。面相はふつくらと穏やかで、如何にも安産、子授けにと、相応しい。

この地藏菩薩像は、室生寺金堂の本尊（釈

迦如来）の様式と極めてよく似ている事や、その右側の地藏菩薩像に不似合いな板光背が、この安産寺の子安地藏菩薩像にぴったり一致する事。又、この地藏菩薩像の彩色は、かなり剥落しているものの、衣文の峰におかれた截金等がある。この地藏菩薩像は、竜穴神社の祭神「善女竜王」の分霊を応永三年（一三九六）に中村の地に迎えたと言いう伝え等、かなり深い関わりでもあつたのか？近世に室生寺金堂から移安されたものと考えられる。

■重要文化財としての尊容

本像は、昭和十五年に「国宝」に指定されていたが、戦後「文化財保護法」が制定され、昭和二十五年に国の重要文化財に指定される。

この像は、像高一七七・五センチ、櫃の一本作りで、背面より長方形に背割りを施しているものの、着衣の赤や截金手法、弧線状に流れる美しい衣文など、室生寺本尊に酷似した作風が見られ、どうも同一の仏師の手によるのではないかと思われる。又、衣文の様式は平安前期の彫像の特徴である翻波式ではあるが、彫りが浅く条線が滑らかなので室生寺様式（複翻波式＝漣波式）とも呼



ばれている。

制作年代は平安時代前期（九世紀末）室生寺金堂の本尊（釈迦如来立像）の脇侍として十一面観音と一対の像であつたと考えられる。然し、現在安産寺では独尊仏として祀られている。

尚、安産寺は中村自治会が管理する無宗派寺であるが、廃寺となった正福寺の諸仏像（阿弥陀如来、不動明王、地藏尊、弘法大師）を合祀し、本尊の子安地藏尊は、文化庁の指定通りに建立された収蔵庫に安置されている。